

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 地域移行・地域生活支援部会（第6回）			
(2) 開催日時	平成29年12月20日（水）10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区役所 902会議室			
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：青山 明子）			
	白井 絵里子	山根 聖子	相原 美晃	鶴田 雅英
	栗田 総一郎	志村 陽子	齋藤 信子	林 達彦
	秋葉 照美	山田 悠平	岡田 あい子	帯瀬 和明
	伊藤 明春	山田 紗梨	藤牧 裕佳子	岡本 洋
	川島 浩子			
	区職員：小鳥 彰子（健康づくり課健康づくり担当係長）			
	区事務局：平野 理恵子・関根 あずさ（障害福祉課） 木伏 正有・森田 好美（障がい者総合サポートセンター）			
(5) 内容・要旨	<p>1 確認・連絡事項</p> <p>(1) 司会：志村委員、記録：齋藤委員</p> <p>(2) 出欠者の確認</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p>(4) 事務局からの連絡事項</p> <p>①2月作業部会の確認 →2月9日（金）10時00分～</p> <p>②2月部会ゲストスピーカーについて →横浜で障害者自立生活アシスタント事業を行っている望月氏に講師を依頼する。（当日資料あり）</p> <p>③次期おたおた障がい施策推進プラン パブリックコメントの周知</p> <p>④発達障害シンポジウムの情報提供</p> <p>2 部会長の挨拶</p> <p>3 前回の振り返り（前回のご意見カードと議事録を参考） →・限られた時間で仕方はないが、もう少し時間があると良かった。 ・1カ月後に振り返るときに覚えていられるのか。 などの意見があった。</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 公開勉強会のふりかえり →当日はアンケートの集約より36名の参加。 ・チラシの段階から重症心身障害者について触れることを周知していれば参加者がもっと増えたのではないかと。 ・もっと多くの人に聞いてほしい良い内容であった。事業所としてあきらめているところがある。話を聞いて、今ある制度をもっと発展させてい</p>			

くことができるはずと感じた。

- ・個人では限界がある。事業所にもっと頑張ってもらいたいと思った。
- ・目からウロコの話だった。
- ・都外施設には入れるだろうと思っていたのに難しいと聞き驚いた。
- ・働き手には限りがあって、高齢者にヘルパーさんが集ってしまったら障害者には少なくなって状況が厳しくなると思った。
- ・働ける人の人口が減っていくので、考え方の転換をしていかないと状況に追いついていかない。
- ・社会福祉法人も経営を考えていかなければならない。専門職が専門だけやっていたらよいかと考えていたらやっていけなくなる。もっと視野を広げていかないといけない。
- ・戸枝さんの取り組みは以前から知っていたが、動いていく支援者とともにお互い年を取っていく。考え方を柔軟にしていかないといけない。勉強になった。

(2) 事例検討のふりかえり

- *この後の時間確認 10時35分～11時00分 全体
 11時00分～11時40分 グループにて検討
 11時40分～12時00分 まとめ発表

*抽出された課題を「時間を要すること」と「すぐに取り組めること」に仕分ける。

*『体験』のあり方を、全体で考える。

- ・本人の意思決定のために「体験」は重要
- ・入所施設ではない生活を体験する「体験」とそのグループホームで生活することを決める「体験」がある。
- ・自立している人の話を聞く場も体験になる。
- ・スタッフの遠隔地の病院や施設まで行くお金をどうするのか。
- ・選択肢を増やす体験であるなら施設の近くでも可能ではないか。
- ・言葉ではわからないことやイメージできないことも体験でわかる。

*抽出された課題の解決策を検討（グループワーク）

D 班

- ・時間をかけることが重要。支援を決めつけない。サービスよりも本人のニーズの視点をもつべき。サービスありきではなく、ひとりの人の生活の困り感を見ていくことが必要。体験に失敗しても判断を決めつけない。ケアマネの研修が必要。高齢だけ、福祉だけで決めつけない。専門家の目線だけでなく、障害福祉サービスについての生活者の目線で対応する。サービス等利用計画の「等」が重要

C 班

- ・仕組みがあれば戻ってこられるのか。本人に寄り添う支援者チームがないとだめ。夜は夜の、昼は昼の支援チームでみていく。キーパーソンの意向では

なく本人の意見をどう汲んでいけるのかが大切。体験した結果「だめ」で終わってはいけない。受け入れ側もルールを柔軟にすることが必要。

B 班

- ・すぐにできる改善として「障がい者福祉のあらまし」を修正しわかりやすく情報発信する。わかりやすさのアンケートを区民に実施する。
居住の場・日中の場と事業所の連携には、複数の課題があり、多くの関係機関が事業所の強みを生かしながらチームで支援する必要がある。支援する側も孤立させない仕組みが必要。住む場所の確保のために既存の建物を活用していく。

A 班

- ・意思決定についてすぐに取り組めること。本人中心のケア会議を複数回行い、支援を広げていく。体験をする前にまずは見学が必要であり、多くの資源を「見学ツアー」する。地域生活のイメージをもつために友人や知人と会う。生活を振り返るために、また、先の生活を考えるために、自分史を作る支援をし、本人と生活の設計図を確認することも大切。施設の人から地域の人に支援を広げる。地域移行支援事業（障害福祉サービス）を周知し活用する。

5 グループホーム連絡会報告

- ・知的障がい者のグループホーム連絡会で話し合った。アンケートについては、部会の意見もふまえて記入してもらうことになった。

6 その他（委員からの情報提供など）

- ・おおた TS ネットより取り組みの情報提供。

※次回（第7回）日程

作業部会	1月24日（水）	10時～
部会	1月31日（水）	10時～